

風しんの第5期の予防接種についての説明書

【風しんの症状について】

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。妊娠初期の女性が風しんにかかると、お腹の赤ちゃんに風しんウイルスが感染して、先天性心疾患、白内障、難聴のほか、精神や身体の発達に遅れ等の障がいを持った先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる場合があります。

【ワクチンについて】

麻疹ウイルスおよび風しんウイルスを弱毒化して作られたワクチンです。麻疹ワクチンも風しんワクチンも1回の接種で95%以上の方が免疫を獲得します。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。副反応の主なものは、発熱と発疹です。他の副反応としては注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。稀に接種後30分以内にアナフィラキシーという重いアレルギー反応を認めるかたがいます。その他、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が稀に生じる可能性もあります。

【接種を受けることができないかた】

- ① 接種直前の体温が37.5℃以上であるかた
- ② 重い急性疾患にかかっているかた
- ③ このワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがあるかた
- ④ ワクチンを受ける3か月以内にガンマグロブリンの注射あるいは輸血を受けたことがあるかた
- ⑤ 以前受けた予防接種から接種間隔が不足しているかた
- ⑥ その他かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれたかた

【接種後の注意事項】

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーが起こることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれん等の異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください
- ③ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや気分が悪くなったとき等は医師にご相談ください
- ④ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、接種した日の翌日から起算して27日間以上の間隔をあける必要があります
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが接種部位をこすることはやめましょう
- ⑥ 接種後当日は激しい運動は避けてください

【予防接種による健康被害救済制度について】

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働省が予防接種と因果関係があると認めた場合に予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。

【転出された場合】

抗体検査や接種日当日に瑞穂市以外に住民登録されているかたは瑞穂市で発行されたクーポン券で受けることができません。転入先の市町村にお問い合わせください。